

令和6年8月29日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

1 開 会 時 間 9 時 3 0 分

2 閉 会 時 間 1 0 時 4 8 分

3 教 育 長 名 和 田 智 司

4 署 名 委 員 藤 原 直 彦

5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏 名
○	教育長	和 田 智 司
○	教育委員 教育長職務代理者	藤 原 直 彦
○	教育委員	杉 本 か お り
○	教育委員	古 正 栄 司
○	教育委員	岡 野 敏 彦

6 出席者氏名	教育部長	椎野 文彦
	教育総務課長	田嶋 卓司
	教育指導課長	倉重 成歩
	教育指導課課長代理	高谷 松慶
	生涯学習課長	山下 昌志
	教育指導課指導班長	安藤 通晃
	教育総務課教育総務班長	高橋 梓
	教育総務課教育総務班主事	川名 義紀
	教育支援室専任教諭	成田 由紀子

7 傍 聴 者 0 名

8 調 製 者 教育総務課教育総務班主事 川 名 義 紀

1 開会宣言

(教育長) 令和6年度8月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

藤原委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 8月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

(藤原委員) 授業支援ソフトの導入については、子ども達が使いやすくなっているのか。それとも先生達が教えやすくなっているのか。

(指導班長) 両方だと考えている。先生方が使いやすく、使いたくなる環境を整備すること一番メインに考えていて、その結果子ども達にも使いやすい環境になっていくと思う。

(古正委員) 現在一色小学校で支援級の子ども達に関わる仕事をさせていただく中で、現場では授業支援ソフトの導入を心待ちにしていると感じる。実は私も、支援級の子ども達と関わる中で、アプリをよく使わせることがある。国語、算数、社会、理科だけではなく、チャット GPT を楽しむ子どももいる。ある子どもは、AI とディベートでやり合って相手を論破する〇〇論破という、チャット GPT のアプリにはまっており、これがとても面白い。AI とやり合って、勝つとガッツポーズをする。そういうものがとっさに使えるように手元にあるとはまる子どもが多い。普段ならば10分15分しか集中できないような子どもが45分では足らなくて、休み時間になっても集中してやめない。バッテリーがなくなってしまうくらいずっと計算や苦手な漢字や片仮名の書き順をひたすら確認している。使い方によっては子ども達が飽きずに、目の色を変えて取り組むようなものもあるので、現場にとって用意してあげることは大事だと思います。

(岡野委員) 授業支援ソフトは各学校にどのように導入するのか。

(指導班長) 基幹ソフトは、3校共通で導入をしていきたいと考えている。それ以外のソフトについては、情報教育担当者会で3校の担当者が集まって一緒に検討し導入していくプロセスを整えたので、その中で必要があると判断した場合には導入していきたいと思っている。

(岡野委員) 情報共有やメンテナンス、管理や運用面を考えると学校ごとに独自のソフトウェアを導入してしまうことなきよう、かつ、先生方の希望をできるだけ叶えることができる視点である程度コントロールが効いた方が良くと思うので、その流れで良いと思います。

4 付議事項

(1) 議案第 13 号 令和 6 年度一般会計補正予算（第 2 号補正）について

（教育部長・教育指導課長）令和 6 年度一般会計補正予算（第 2 号補正）について資料に基づいて説明

- 非公開 -

5 報告・協議事項

(1) 令和 6 年度二宮町教育委員会点検及び評価報告書（令和 5 年度事業分）について

（教育総務班長）令和 6 年度二宮町教育委員会点検及び評価報告書（令和 5 年度事業分）について資料に基づいて説明。

【施策評価シートについて】

（岡野委員）主として伝えたかったことは、やったことはちゃんと自信を持って言えること。もう 1 つは、具体的に書くこと。実際に活動してどこが困ったかなど苦労したところを浮き彫りにすることで次に取るべき行動が、見えやすくなると思う。

（藤原委員）5 ページ 1-②将来に向けた特色ある学校づくりの推進について、KPI の実績がないのに達成状況が A となっているがいかかが。

（教育総務班長）評価不可と訂正する。

（藤原委員）6 ページ 1-③学校教育に関する情報発信の強化について実績が 50%以下となっているが達成状況の基準に当てはめると C になると思う。

（教育総務課長）C へ変更する。

（藤原委員）7 ページ 2-①すべての児童生徒が安心して学べる教育環境の整備について、「不登校率」が上がっているのに、「新規不登校者数」が少ないので関係性はどのようになっているのか。

（指導班長）新規不登校者数を改めて確認し修正する。

【総論について】

（藤原委員）とても綺麗にまとまっていて点検評価としては画期的だと思う。KPI の数字に対して具体的な行動が必要だと書いてあることは素晴らしい工夫だと思う。今後は、具体的な行動につなげるためにも、さらに詳細な分析ができると良いと思う。学校ごとに将来の夢や目標をもっている生徒がどうかについて中学校では基準値 69.6%に対して実績 67.4%と見ると 2.2 減っているが、何が原因かは紐とかないと具体的にわかりにくい。それならば学年や学校単位の数値に分け分析できると良いと思う。

（教育総務班長）来年度の点検評価では、可能な限りデータを参考に分析を行う。

(2) 教育相談および教育支援室の状況について

(指導班長、成田専任教諭) 教育相談および教育支援室の状況について資料に基づいて説明。

(古正委員) 通室の仕方は、保護者の送迎が原則か。

(成田専任教諭) 小学生は安全を考慮して保護者の送迎をお願いしている。

(古正委員) 保護者の送迎がハードルになって、通わせられない家庭はないか。

(成田専任教諭) 共働き世帯も増えていることから、保護者の送迎ができず通室を断念したケースがあり課題だと感じている。

(古正委員) 成田専任教諭の説明にあったように、たった1人であったとしても、やまびこがあったことで自分の人生が変わるお子さんが出てきたら、こんなに素晴らしいことはないと思う。そうすると、保護者の送迎がネックになって、通室が難しい家庭があったとしたら、何とかできないか。例えば民間サービスだとワゴン車を使って送迎を行っている。行政機関がやるとなると難しいことですが、上手く民間と連携をして、解決できないかと思う。私もあんまり事例を調べたことがないのでわからないが、もしかすると場所によってはそういった取り組みをしているところがあるかもしれない。何とか、そういう家庭のお子さんも、通えるようになるといいと思います。

(岡野委員) 古正委員の意見に関連して、先日ニュースで見たが、共働きしている両親が保育施設等に預けてから仕事に行くのはやっぱり難しい。そこで、最寄りの駅に子ども達を預かる場所があり、町の巡回バスでピックアップして保育園に届ける。要するに行政と民間の保育施設の連携みたいなことをやっている自治体もあるとやっていた。どれくらいの対象者になるかわからないが、少なければ、迎えに行くことはできないかと感じた。私の耳にも両親の都合でやまびこに来ることができない家庭があることは聞いていたので、ニュースを見たときにそんなことを感じた。現実的には、安定運用がどこまでできるかわからないが試してみてもいいと思う。

(教育指導課長) やまびこだと安定的に来られる子と来られない子がいるので、日々の通室状況が変わるので難しいと思う。

(教育部長) 自己負担になるが例えばタクシー等の公共交通機関であればその子の都合で必要なときに利用することができる。

(教育長) 保護者や学校に来ることのできない児童・生徒の気持ちに寄り添って何ができるかを考えることが必要と感じた。

(藤原委員) 素晴らしい取り組みだと思う。でもやっぱりその先の学校が受け入れられるようにやっていることがすごく大事で、上手くいかないことがあっても、ちゃんと教育の現場はしっかりしていることが重要。一方で利用者は小学校の低学年が多く、不登校率を見ると、圧倒的に中学校の方が多い。なぜそういう比率になるのか。

(成田専任教諭) 中学生は進路のこともあるので通える範囲で学校へ通って学習を続けて

いく。一方で現在の低学年は幼稚園・保育園時代がコロナ禍だったこともあり、集団生活をしっかり学べずに小学校へ入学したことも影響しているかもしれない。

(3) コミュニティ・スクールの運営状況について

(教育指導課長) コミュニティ・スクールの運営状況について資料に基づいて説明。

(藤原委員) コミュニティ・スクールは、立ち上げるときに PTA 会長をやっていた身とする
と停滞していると感じる。地域の関わる人が限られている。昨日も学習相談に行ったが、取
り組みとしては定着していて成果はどんどん変わっているけど、サポートしている側の人
は変わらない。講師を集めたりして、集まったらもうそれ以上PRしなくてもこと足りるので
積極的に発信しなくてもいい気にもなってしまう。だからできる限り業務を効率化して、最
小のパワーでやればいいみたいな懸念がある。ちょっと前も話したが、新しい風を吹かすた
め、小中一貫や、中学校同士のコミュニティ・スクールをくつつけるなどしてはどうか。違
う切り口を入れていかないと、このまま粛々とやっていくだけになる気がする。また、放課
後子ども教室はとても良い取り組みなので、あれを主軸にコミュニティ・スクールを考えて
いけば活気が出ると思う。

(岡野委員) 立ち上げの時はいろんなアイデアとか新しい人材が集まるけど、安定期・定
着期に入ってくるとメンバーの固定ややることが毎回繰り返しになってしまう。安定期に
入ってくるのは良いことだが、それをどう次のステップに繋げていくのか、ちゃんと考え
て行く必要があると思う。二宮中学校は①学習、②学校支援、③地域活動、3つの部会が
ある。過去に全国のコミュニティ・スクール 60 数件を全部タイプ別に分解したことがあ
ったが、この3つに分類される。学習支援は教室の中に関わるそれに近い活動。学校支援
は、草刈とか学校の設備や学校そのもののハード面が多い。もう1個が地域活動。ここで
地域活動っていう文字が入ってくるが、その60数件の中の半分はキャリア教育っていう
言葉が使われていた。地域の人がいろんな活動を一緒にやるのもここに入っていると思う
が、その中でも特にキャリア形成に関すること、要するに地域で働いている人が、その職
業感の視点で子ども達に話をする、そういう活動が、この3つの部分の半分だった。そう
いう視点で見ると、何か違うアクションに繋がっていけるのかと感じた。あんまり座学つ
て言う風にならないようにもしたい思いもある。小学校ではやっぱり①と②が多い。中学
校は、②、特に③が多くなっていたと感じた。いわゆる職業体験とキャリア教育は別の物
だと私は解釈していて、職業体験は出の情報、キャリア教育は自分がこれからどうやって
歩いていくか足跡を踏んでいくことをイメージする。そういう活動なので、本質的に違う
ので単なる職業体験ではなくて、これから自分の将来を見据えていくところをつなげてい
けるような活動になっていくといいと思う。仕事は入り方によっては、堅苦しくなる側面
もあるので、そういうカテゴリーの中の活動として捉え将来が見えることができるといい

と思います。

(4) その他

－ 次回教育委員会予定 －

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

10 時 48 分 閉会